巻頭言

核医学検査に従事する女性診療放射線技師のための“はなみずきの会”結成

太田三恵子
Ota Mieko
（岐阜県総合医療センター）

2023 年 7 月に，日本核医学技術学会では「女性活躍推進委員会」，通称“はなみずきの会”を立ち上げました。筆者はその代表を務めております。日本核医学技術学会の女性会員数の割合は，全体のわずか 8％（2025 年 4 月現在）です。これは，同時期における日本診療放射線技師会の女性会員が全体の 27％（2025 年 1 月現在）[1] であることと比較すると，核医学検査に従事する女性の割合が非常に少ないことを示しています。診療放射線技師全体の約 4 分の 1 を占める女性技師は，マンモグラフィ等女性患者への配慮が求められる検査に優先的に配置される傾向にあり，多くの被ばくを伴う核医学検査は，結果として男性技師中心となっているのが現状です。しかし，女性技師の割合を世代別に見ると，50 歳代が 14％であるのに対して，20 歳代は全体の 47％にまで増加しており，若い世代では大幅な増加傾向にあります [1]。技師養成校によっては，学生の半数以上が女子学生というところもあり，今後の診療放射線技師の領域は，女性が男性を上回るかもしれません。そうなると，核医学検査に従事する女性技師の増加は不可欠と言えるでしょう。ところが現状では，「被ばくが多いから」「妊娠したらどうするの？」といった理由から，核医学検査は女性には不向きという固定観念が，女性自身だけでなく男性の間にも根強く残っています。こうした「女性技師に核医学は向かない」といった偏見を払拭し，女性技師が核医学検査に従事しやすい環境を構築することや，学会参加や研究を行いやすくすることを目的に“はなみずきの会”が結成されました。現在，はなみずきの会は，核医学検査における女性技師の存在を広く知ってもらうために，SNS を通じた情報発信を行っております。また，日本核医学技術学会のホームページにも，はなみずきの会コンテンツを掲載しておりますので，ぜひご覧ください。

2025 年 11 月 13～15 日にかけて，京都にて第 65 回日本核医学会学術総会（会長：京都医療科学大学 大野和子先生）と合同で，第 45 回日本核医学技術学会総会学術大会を開催します。この大会で，はなみずきの会の企画として，欧州核医学会女性活躍推進委員会の副委員長である Agata Pietrzak（Poznan University；Poland）博士をお招きし，欧州での働き方を学びつつ，日本における未来のあり方について，日本核医学会ダイバーシティ･エクイティ＆インクルージョン委員会や男性技師の皆様と共にディスカッションを行います。更に，もう 1 つの企画として，「ヨウ素制限への理解を深める」をテーマに，東京医科大学の吉村真奈先生から「核医学治療とヨウ素制限の重要性」をご講演賜ります。この企画では，はなみずきの会の委員が日本甲状腺学会で作成された「低ヨウ素食レシピ集」[2] をもとに実際にヨウ素制限食を調理・試食した感想を報告いたします。果たして美味しいヨウ素制限食ができたのか，その結果にもご注目ください。

まだまだ，手探り状態のはなみずきの会の活動ですが，核医学検査における女性技師の重要性を再認識し，従事する女性技師にとって必要とされる存在を目指して精進してまいります。そのためには女性だけでなく，男性の皆様のご理解とご協力は欠かせません。はなみずきの会への温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

1）（公社）日本診療放射線技師会令和 6 年第 6 回理事会資料
2）日本甲状腺学会【核医学診療における甲状腺疾患とヨウ素】ワーキンググループ作成（2018 年 5 月第 1 版）